

リニア時代を迎える飯伊地域の資源（8）

赤石山脈（南アルプス）（5）飯伊地域

～飯伊地域の中心で南アルプスを考える～

これまで、南アルプスについて飯田市遠山郷（2019年4月発行号No.481）、大鹿村（同年6月発行号No.483）、上伊那地域（同年8月発行号No.485）からレポートした。その後南アルプスの反対側、山梨県や静岡県を取材する予定でいたところ、今春からの新型コロナウイルスにより、緊急事態宣言は全国的に解除されたものの、県境を越えた移動は自粛せざるを得ない状況が続いている。そこで、今回は飯伊地域において「南アルプスとは」を考えてみたい。



松川町上片桐からの眺望
雪のピークを左から、塩見岳（百名山）、小河内岳、悪沢岳（同）、荒川（前・中）岳、赤石岳（同）

1. 飯伊地域住民はなぜ南アルプスに関心がないのか

シリーズ導入部（2019年1月発行号No.478）で、南アルプスは「わが国第一級の資源」と述べた。しかしながら当地域の皆さまの南アルプスに対する関心は低いようである。シリーズ最初の頃周りの人に尋ねたところ、南アルプスの主要ピーク名を言えないことが多かった。また、当金庫の平成27年度「リニア中央新幹線開通に係る調査」のアンケート調査「紹介したい飯田市下伊那の祭り・イベント・場所」の項目で「南アルプス・アルプスの眺望」はアンケート回収数330中（複数回答）6票で27位という結果であった。因みに、山岳関係では「しらびそ高原」が19票で15位、「風越山・登山マラソン」が4票37位などがある。山岳関係と言えなくもない「下栗の里」が39票7位ではあるが、当地域では全般に山関係は関心が薄いといえるのでないか。

当地域のこの現状について、前年度まで飯田山岳会会長を務められた伊藤康德氏は「学校登山が影響しているのでは」という。昨今学校登山が従来のように実施できず取りやめとなってきていることかと思いきや「学校登山で苦しい思いをして、もうあのようなことはこりごりと感じるのでは」とのこと、「県外で生まれ育ち、山にあこがれて信州に移り住んだが、こちらでは学校登山で木曾駒ヶ岳（西駒ヶ岳）など第一級のピークに行くと聞き驚いた。確かに達成したとき得るものは大きいですが、コンディションの悪いときに遭遇するとたいへんな思いをする」との指摘であった。

2. 飯伊地域の特性は

当地域で南アルプスへの関心が低い理由として、小欄としては「飯伊地域では南アルプスが遠くて見えないから」という仮説を立ててみる。

「遠い」というのは、飯田市市街部の中心（例えば飯田市役所）から南アルプスの主稜線まで地図上で測ると丁度30km位となる。これは甲府市中心部から南アルプス稜線部までの距離とほぼ同じ。甲府市内に立って南アルプスに近いという感じは受けませんが、私たちにも同様に南アルプスは案外と遠いことが判る。

安曇野市から大町市を通り小谷村へ通ずる国道148号線（糸魚川街道）を基準に測ると、北アルプス稜線まで松川村辺りで20km弱、白馬村になると10km程度とぐっとアルプスが迫ってくる感じとなり、臨場感が違ってくる。

「山との距離(感)」という考えに至ったのは、上伊那地域を訪問した際、山がたいへん近く見えるのに気づいたことによる。中央アルプス観光に取り組んでいる駒ヶ根市では、国道153号線を基準とすると、中央ア木曾駒ヶ岳までは12km程度。また、駒ヶ根市街地に立つと東に南ア仙丈ヶ岳が大きく迫ってくるが、同じく20km程度となっている。南アルプス観光に注力している伊那市では、仙丈ヶ岳と並んで甲斐駒ヶ岳、鋸岳(稜線まで約20km)を市内のかなり広い範囲で見ることができる。



駒ヶ根市街地からの南アルプス(同市上穂北)
左 仙丈ヶ岳(百名山)、右 北岳(同、日本第二の高峰)

3. 飯伊地域では遠い上に見えない

「見えない」については、飯伊地域では遠い上に、伊那山地や南アルプスの前山部分に遮られ、見える場所が限られる。

北アルプスでは、主要ピークの裾がそのまま手前まで下りてきて、山麓にスキー場があったりする。上伊那地区にも前山はあるが、飯伊地区よりは低く、アルプスが見える範囲は広い。飯伊地域では、例えば前頁冒頭の写真では、伊那山地の小渋川の浸食による切れ目から赤石岳から塩見岳までひと繋がりで見えているが、



伊那市街地からの南アルプス(同市荒井)
左から鋸岳(二百名山)、甲斐駒ヶ岳(百名山)、仙丈ヶ岳(同)

これより南に移っていくと前山が高くなって遮られ見えにくくなる。また、松川町の辺で主稜線まで20km程度だが、南に下る程主稜線との距離がだんだん遠くなる。飯伊地区で南アの眺望を得るためには、一般に飯田市街地面とか中央自動車道より上の標高が必要で、それより低い地点や竜東地区では難しくなる。勿論、飯伊地域を巡っていると、思いがけず山の切れ目などに南アルプスのピークを見つけ感動する場所もあり、飯伊地域の皆さまそれぞれの「私の南アルプス」をお持ちのこととは思われるが、地域全体としての南アルプス観はなかなかまとまらず、南アルプスに対する温度差が大きいのでは、というのが「遠くて見えない」仮説の内容となる。

4. 南アルプス観光には厳しい状況が続く

前回までのレポートで、風水害による通行止めで各地の入込みに影響が出ていることを伝えた。先ず、大鹿村から地蔵峠を経て飯田市上村に至る国道152号線は、復旧対応が終了、杖突峠から伊那谷に入り遠山郷を縦断して遠州に抜ける「一気通貫」のドライブ・ツーリングが再び可能となった。また昨年通行止めとなっていた下栗の里から御池山クレーターを経てしらびそ高原へ向かう道路も通行可能となっている。が、折からのコロナウィルスにより外出の自粛や観光施設の閉鎖措置がとられており、観光客が殆ど見られない状況となっている。

^{ひじり}聖岳などに向かう^{たよりがしま}便ガ島や^{いろろど}易老度への市道は今年度末を目途に復旧工事が続けられており、引き続き芝沢ゲートからの徒歩を強いられているが、コロナウィルスに関し、山岳関係4団体((公社)日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、(公社)日本山岳ガイド協会)は、山小屋での3密や遭難時の山岳救助関係者や医療関係者への負荷を考慮し、登山・クライミング行為の自粛を呼びかけた(本年4月20日、各団体HP)。5月25日の緊急事態宣言全面解除後は、二次感染症拡大防止等を内容とした「登山・スポーツクライミング活動ガイドライン」を定め、引き続き協力を呼び掛けている。地区内の各地点が従来の賑わいを取り戻すには尚暫くの期間を要すると思われる。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア対策三遠南信対策室 加藤 修平)